ひねのしょういせき

# 国史跡 日根荘遺跡

大木地区

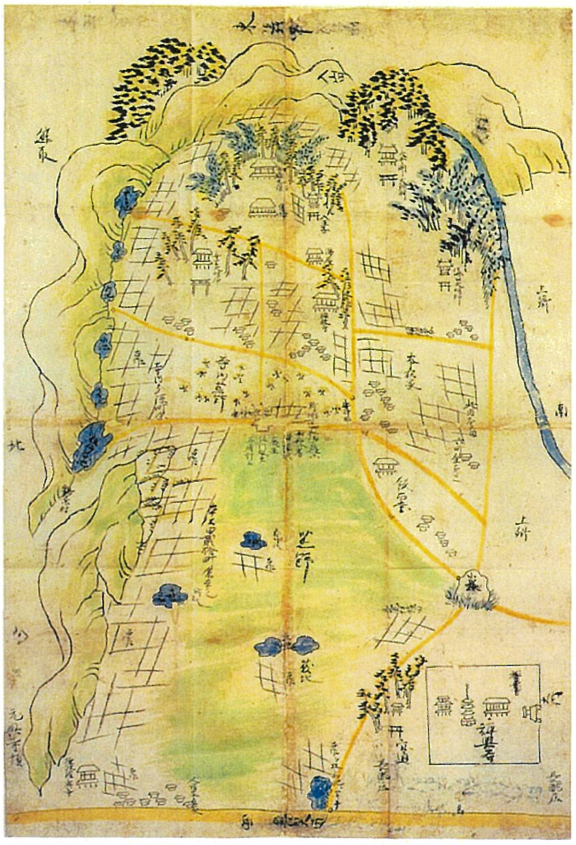
日根野地区

日根荘は鎌倉時代から戦国時代にかけて、現在の泉佐野市域にあった九条家領の荘園です。九条家により、天福二(一二三四)年に日根荘が立荘され、宮内庁所蔵の『九条家文書』を中心に当時の様子がわかる文書がたくさん残されていることから、当時のことを解明する手がかりが多く存在し、寺社堂などの建築物やため池、丘陵などの景観が現在でもよく残されていることで、全国的にも有名な中世の荘園遺跡となっています。

この歴史的景観を構成するものの中から、寺社やため池・水路など平成二十七年八月末現在16か所が国史跡となっています。

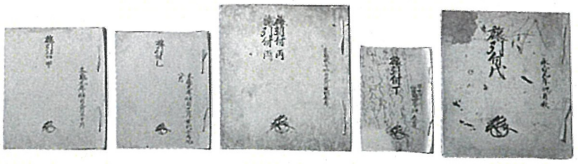
# 日根荘とその時代

時間とは、決して流れ去るものではありません。
ゆっくりと積み重なって熟成されていくものです。
日根荘ー かつて日本にあった「何か」があります。



日根野村絵図（宮内庁書陵部蔵）

この絵図は1316（正和5）年に、時の摂関家九条家領の日根野村周辺の様子を描いた絵図で、その発見は日本の歴史研究に大きな波紋をなげかけました。描かれている丘陵やため池、田、寺社、民家などから連想される当時の歴史的な景観が、今も現地で体感することができる全国的にも貴重な場所です。



政基公旅引付（宮内庁書陵部蔵）

# 中世からの熟成された時間。目の前にある日根荘のすべての事象が史跡です。

荘園は、奈良時代から戦国時代まで続いた日本の土地所有の形態です。743(天平15)年に聖武天皇によって発布された「墾田永年私財法」にはじまり、16世紀の豊臣秀吉による「太閤検地」によって終焉を迎えるまで、わが国の政治・経済・社会・生活を生み出す基盤となっていました。

公家や寺社は、荘園を開発し勢力を伸ばしていきました。鎌倉時代から戦国時代にかけて和泉国日根郡に所在した日根荘も、摂政や関白になった五摂家(近衛家・九条家・鷹司家・二条家・一条家)のひとつである有力貴族、九条家の荘園でした。

1234(天福2)年の立荘当初、東は葛木峰(和泉山脈)、西は海(大阪湾)、南は於雄郷の堺(泉南市との境)、北は甲斐田川(貝田川・見出川)が日根荘の範囲とされ、ほぼ現在の泉佐野市域と重なっていました。

しかし、1467(応仁元)年応仁の乱以降、守護代たちの横暴が起こりはじめ荘園経営は危機的状況を迎えます。九条家の家政全般を主導していた前関白の九条政基は、1501(文亀元)年に荘園経営の再建を図るため日根荘に赴き、現在の大木の長福寺に約4年間滞在し『政基公旅引付』(九条家文書)を記しました。

この日記は、戦国時代の村の自治や行事、天災、他の村との協力の様子などが克明に描かれた歴史的価値の高い貴重な史料です。また、1316(正和5)年に描かれた「日根野村絵図」(九条家文書)には、当時の日根荘の丘陵やため池群、耕地や寺社などが詳細に記されています。日根荘は、当時の様子を伝える豊富な史料が数多く残され、史料から連想される歴史的な景観もよく残されています。

中世荘園の世界を体感できる全国的にも貴重な場所として、日根荘の歴史的な価値を構成する日根野地区・大木地区の寺社(跡地を含む)やため池・水路などが、1998(平成10)年に国史跡日根荘遺跡として指定されました。その後、大木の長福寺跡、土丸と熊取町にまたがる土丸・雨山城跡が追加され、平成27年8月末現在16カ所が指定されています。

## 日根荘関係年表

**鎌倉時代**

- 1205　高野山の僧鑁阿　日根野の荒野などの開発を試みるが失敗
- 1222　高野山の僧　再度日根野の荒野などの開発を試みるが失敗
- 1233　中原盛実　長滝荘荘官となる
- 1234　九条家領日根荘成立
- 1266　九条家政所　中原盛経を日根荘井原村の預所職に任命
- 1272　九条家政所　中原盛経を日根荘入山田村の預所職に任命
- 1310　僧実専(実行上人)九条家から日根野村・井原村の開発を請け負う
  (このころ日根野村・井原村絵図が描かれる)
- 1316　久米田寺　九条家から日根野村荒野の開発を請け負う
  (日根野村絵図が描かれる)
- 1325　中原盛治　長滝荘荘官職を相続する

**室町時代**

- 1336　日根野道悟(中原盛治)　畠山国清の樫井城挙兵に参加
  足利尊氏　九条家領での武士の違乱の停止を命じる
- 1359　足利義詮　日根荘での違乱の停止を命じる

**南北朝時代**

- 1403　足利義満　日根荘を九条家に返還する措置をとる
- 1410　和泉国守護 細川頼長　入山田村の半分を建仁寺永源庵へ寄進
  足利義持　日根荘返還を命じるが実現せず
- 1417　日根荘で百姓請
- 1420　九条家の支配回復　代官派遣を相国寺鹿苑院にゆだねる
- 1429　日根野村・入山田村が九条家支配になる
- 1431　十二谷下池の分水・管理について
  日根野村・井原村・檀波羅蜜寺村が契約を結ぶ
- 1457　日根野秀盛ら泉南の国人9名が一揆の契約を結ぶ

**戦国時代**

- 1490　根来衆　井原村を占拠し、九条家に日根荘代官職を要求
- 1501　九条政基　日根荘で直接支配をおこなう
  (『政基公旅引付』が記される)
- 1504　根来寺の僧　日根荘の代官となり、九条政基は帰京する
- 1516　九条政基 死去
- 1533　日根荘から九条家へ段銭が送られた最終の史料

## 1 日根神社 ひねじんじゃ

平城京が築かれて間もない716(霊亀2)年、すでに和泉五社に数えられ、平安時代の『延喜式神名帳』にも記されている式内社です。

「日根野村絵図」には、大井関大明神と記され、農業用水の恵みを与える神として崇められていたことがうかがえます。また、『政基公旅引付』には、毎年4月2日に猿楽の奉納や競馬、弓矢神事などの祭礼が盛大に行われていたと記されています。社殿は豊臣秀吉の根来攻めで焼失しましたが、後に子の秀頼によって再建されました。桃山時代の豪華な姿を残す本殿は、大阪府指定文化財です。毎年5月4日・5日に「日根神社まくらまつり」、7月中旬に「ゆ祭り」が開催されています。

## 2 慈眼院 じげんいん

真言宗御室派の寺院で、1665(寛文5)年に京都の仁和寺から慈眼院の院号を賜わりました。「日根野村絵図」に描かれる無辺光院の後身とする説もあります。井川を挟んで隣接する日根神社とは神宮寺の関係にあり大井関御坊とも称されていました。建物の多くは南北朝の戦乱と秀吉の根来攻めで焼失しましたが、後に秀頼によって再興されました。

境内には、1271(文永8)年に建立され戦火をまぬがれた多宝塔は国宝に、金堂は重要文化財、金堂に納められた杉板に経文を写して束ねた法華経(こけら経)は市指定の文化財、多宝塔に安置されている本尊の大日如来坐像は府指定の文化財になっています。

## 5 野々宮跡 ののみやあと

1908(明治41)年、神社合祀により日根神社境内に移された野々宮神社の宮跡で、石碑が建てられています。慈眼院に残る『寺社改帳』には731(天平3)年に勧請されたと伝えられており、「丹生都比売神社」とも呼ばれ、高野山の地主神で雨を司る丹生都比売命が祀られています。「日根野村絵図」には丹生大明神と描かれ、『政基公旅引付』にも日根野村の野宮の祭礼について記されています。

元禄年間(1688～1704年)の境内帳に記された旧境内地は井川水路沿いに広がり、水利や開発と関係の深い神社でした。現在も日根野地区の大半を氏子として、南北2つの座で構成される宮座によって祭祀が行われています。

## 6 十二谷池 じゅうにだにいけ

日根野地区と熊取町との境にある丘陵部の谷筋をせき止める形で築かれ、「日根野村絵図」に描かれている住持谷池に当たると考えられています。室町時代の半ば、1441(嘉吉元)年に十二谷新池(下池)が築かれた際、日根野村・井原村・檀波羅密寺村の3村が十二谷池の共同利用の契約を交わした書状が残されています。この史料から、池の水は樫井川から取水する井川を使って入水され、日根野村だけでなく平地にある白水池、原池、俵屋新池などを利用して、広範囲の水田を灌漑していたことが分かります。また十二谷池は、日根野村の用水を束ねる親池として長い間、この地域で重要な役割を果たしてきました。

## 7 八重治池 やえじいけ

荒地だった日根野の地を開発するために十二谷池などの親池に加え、八重治池などの子池がつくられました。日根荘成立時の1234(天福2)年には、既に存在していたようで、「日根野村絵図」に描かれている八重池がこの池に当たると考えられています。同絵図では八重池と住持谷池の間に、今では存在しない3つの池が描かれていますが、それ以降にまとめられたものと思われます。現在、八重治池は、十二谷池、尼津池、大池などと連結し、ひとつの水系を形成しています。絵図中央に描かれている白水池は現在の日根野駅前にあった池で、再開発で埋め立てられましたが、交差点の名称にその名が残されています。

## 3 総福寺 そうふくじ

寺伝によると、奈良時代の高僧・行基によって創建され、行基自ら十一面観音を刻んで本尊とし、住民の幸福を祈念したといいます。「日根野村絵図」に禅林寺と描かれている寺院が、総福寺に当たる可能性があります。元禄年間に大木の禅徳寺の第二世・雲山愚白により再興され、1685（貞享2）年に天台宗から曹洞宗に改められました。境内の南側には、安土桃山時代に建てられたと伝わる天満宮があり、本殿は桃山時代の建築様式を残す一間社春日造の桧皮葺で、重要文化財に指定されています。「九条家文書」に書かれている“御湯立を行う天満宮、天神社”は、この社であると考えられています。

## 8 尼津池 あまづいけ

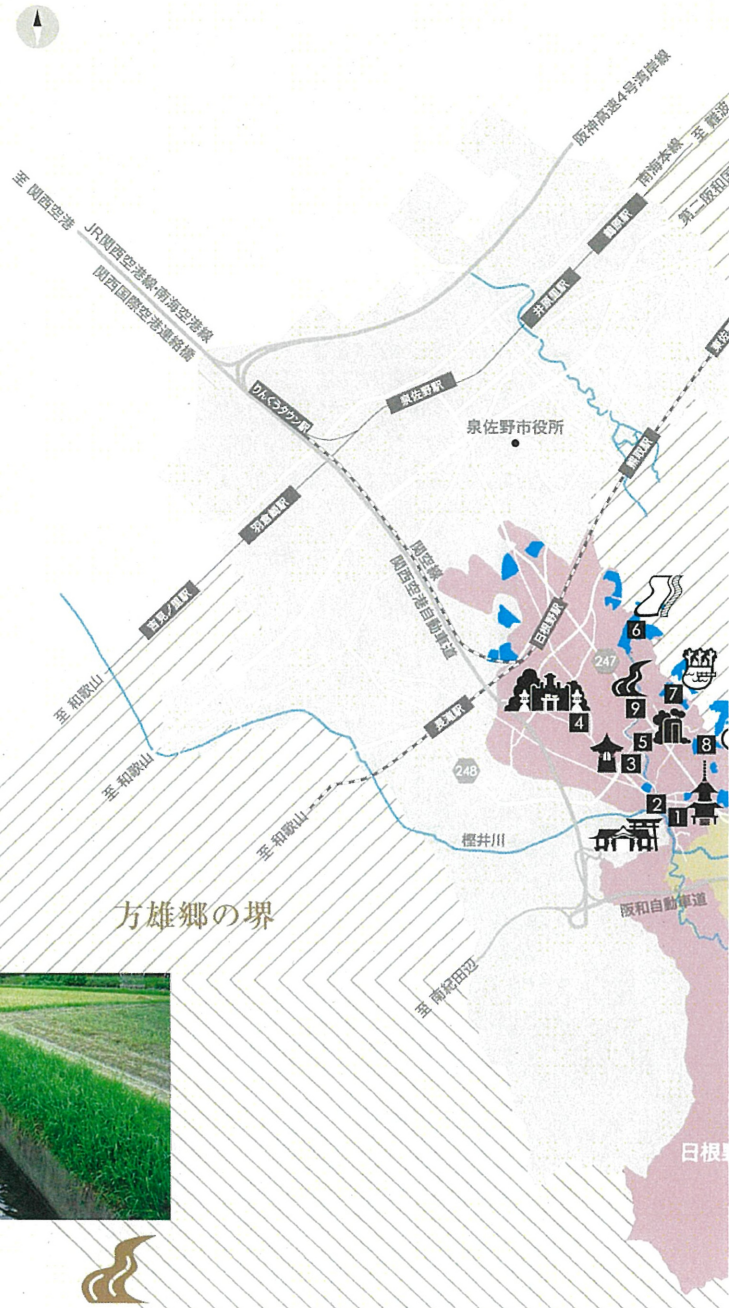
日根野丘陵にあるため池群のひとつで、日根荘の開発の主役となった池と考えられています。八重治池と同じく日根荘成立時の1234（天福2）年には既に存在していたようで、「日根野村絵図」では甘漬池として池群の最も上手の位置に描かれています。また、1761（宝暦11）年に描かれた「日根野村用水絵図」ではあまつ池と記され、尼津池と表記されるのは近世中期以降と思われます。近世初期に上流部に大池が築かれるまで、丘陵部のため池群の親池としての役割を果たしていました。現在も尼津池からの水路（底樋川など）は、井川までの範囲を灌漑し、井川と合流した後は下流の広い範囲を灌漑しています。

## 9 井川 ゆかわ

樫井川から取水する水路で、土丸の取水口から崖沿いを進んだ後、日根神社と慈眼院の境内の中を通り、十二谷池まで続く延長約2.75kmを高度差約3mで流れるように、高度な土木技術を駆使してつくられています。

開削時期は不明ですが、日根荘成立時には部分的に利用されていたようで、井川を描いた最古の絵図として、1761（宝暦11）年の「日根野村用水絵図」があり、樋や分岐水路などが緻密に描かれています。

現在でも日根野地区の主要な水路として機能している井川は、ほぼ当時のルートを踏襲して、尼津池などからの水路と合流しながら、広範囲にわたって灌漑しています。




### 国史跡日根荘遺跡指定地一覧

| | 名称 | 所在地 |
|---|---|---|
| 1 | 日根神社 | 日根野（東上） |
| 2 | 慈眼院 | 日根野（東上） |
| 3 | 総福寺 | 日根野（久ノ木） |
| 4 | 新道出牛神 | 日根野（新道出） |
| 5 | 野々宮跡 | 日根野（久ノ木） |
| 6 | 十二谷池 | 日根野 |
| 7 | 八重治池 | 日根野 |
| 8 | 尼津池 | 日根野 |

日根荘は泉佐野市域にあった荘園です。 平成27

国史跡

# 日根荘遺跡マップ

| | 名称 | 所在地 |
|---|---|---|
| 9 | 井川 | 日根野 |
| 10 | 火走神社 | 大木（中大木） |
| 11 | 円満寺 | 大木（下大木） |
| 12 | 毘沙門堂 | 大木（中大木） |
| 13 | 蓮華寺 | 大木（上大木） |
| 14 | 香積寺跡 | 大木（上大木） |
| 15 | 長福寺跡 | 大木（下大木） |
| 16 | 土丸・雨山城跡 | 土丸・熊取町 |

※8月末現在、16か所が国史跡となっています。

## 4 新道出牛神 しんどうでうしがみ

泉南地域では、古くより牛神信仰があり、農耕に欠かすことのできない牛を神格化し、年に一度、農作業などで使役される牛を連れて祭祀を行う農耕信仰です。今でも日根野地区では牛神が祠に祀られ、新道出をはじめ西上などで祭りが行われています。「日根野村絵図」にも牛神松の記載があり、当時から牛神信仰があったと考えられています。新道出牛神には、かつて牛神座があり祭りが行われていたようです。現在も江戸時代の文化年間（1804～1817年）につくられた石祠と石灯篭が残り、毎年8月に祭りが催されています。

## 11 円満寺 えんまんじ

1619（元禄4）年に記された『寺社境内帳』には、犬鳴山七宝瀧寺の末寺であると書かれています。『政基公旅引付』の1501（文亀元）年8月28日の条に、和泉上守護の被官である日根野氏が日根野村東方に攻めてきた際、円満寺の早鐘で急を在地に伝え、村人を招集したとあります。

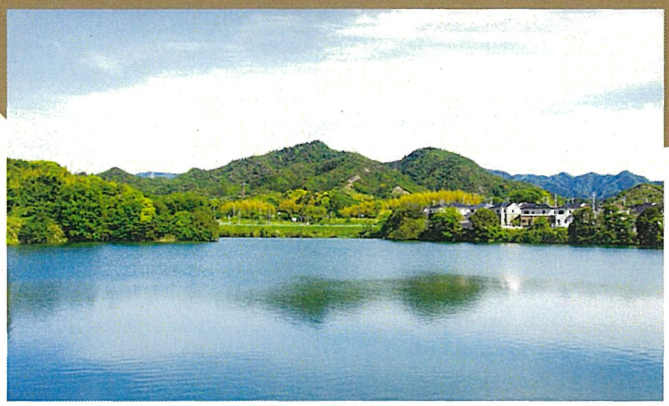
また、1503（文亀3）年4月5日の条には、入山田の人びとが円満寺に集まり、般若心経一万巻を講読して祈祷し、大日堂より八王子社へ一万度参りをしたと記されています。当地は「円満寺」に比定され、史跡指定地になりました。内部には仏像が安置され、今も念仏講が継続して行われ、地域の人々の集会施設として利用されています。

## 12 毘沙門堂 びしゃもんどう

火走神社の前の道を犬鳴山方面に進み、石碑の立つ坂道を登ったところにあります。お堂の正面上部の黒壁には半彫りされた菊水紋が浮かび上がり、堂内の厨子には本尊である高さ50cmほどの秘仏・毘沙門天が安置され、南朝で活躍した楠木氏との関係を示すものだといわれています。お堂が建つ谷筋は五所谷（御所谷）と呼ばれ、室町時代の正平年間（1346～1370年）の一時期、南朝の後村上天皇の仮御所跡だったと伝えられています。『政基公旅引付』にも御所谷集会所との記述があることから、現境内地が史跡指定地になりました。境内には1348（正平3）年の板碑などの石碑が残され、谷筋に暮らす人たちによって講が行われています。

## 10 火走神社 ひばしりじんじゃ

別名「滝大明神」あるいは「滝宮」とも呼ばれ、水との結びつきの強い神社ですが、火の神様が祀られています。元禄時代の『泉州志』には、祭事の際に男巫（神事に仕える人）が火の上を走ったことが「火走神社」の由来だと記されています。『政基公旅引付』にもしばしば登場し、1501（文亀元）年7月、旱魃に際して執り行われた請雨の儀、盂蘭盆に行われた風流念仏、8月の滝宮祭礼での猿楽や田楽の催しなど、優れた芸能に政基が驚いている様子が記されています。摂社幸社は1505（永正2）年の墨書があることから、国の重要文化財に、江戸時代初期の本殿は市指定文化財に指定されています。



## 16 土丸・雨山城跡 つちまる・あめやまじょうあと

紀州と和泉・河内を結ぶ交通・戦略の要衝にある城ノ山と雨山（熊取町）。1346（正平元）年に地元の豪族・日根野氏によって土丸・雨山城が築かれたと伝えられています。1353（正平8）年には、南朝方の楠木氏一族・橋本正督が、北朝方の日根野時盛を追って城に入り戦いの場となり、その後も多くの武将が城の争奪戦を繰り広げました。また、雨山山頂には雨山龍王社（雨山神社跡）があり、古くから雨乞いの場として知られています。徳川家康の天下統一後、1617（元和3）年に城郭がとり払われ廃城となりました。城跡からは関西国際空港が一望でき、当時の日根荘域を四方に見下ろせる見事な眺望が広がっています。今はハイキングコースとして親しまれています。

## 13 蓮華寺 れんげじ

入山田村には、上大木と土丸の2カ所に蓮華寺が存在し、『政基公旅引付』にも蓮華寺の名を見ることができます。1417（応永24）年の史料『九条家文書』の船淵村の項に蓮華寺の記載があり、中世には存在していたと考えられます。また1691（元禄7）年の『寺社境内帳』には、真言宗の寺院で七宝瀧寺の末寺であるとの記述があります。

お堂の軒先に「五台山」の額がかけられ、堂内には本尊の如意輪観音像が祀られています。現在、蓮華寺は上大木地区の集会所として使用され講なども行われており、村寺の機能を果たしています。境内には紀年銘は確認できないものの、中世の石仏や一石五輪塔などが残っています。

## 14 香積寺跡 こうせきじあと

上大木の集落を眺望する山の中腹にあり、毘沙門堂や蓮華寺と同じく七宝瀧寺の末寺と伝えられています。

『政基公旅引付』の中に、歳末や年始に際して政基に仕える香積寺の僧侶の様子や、政基が入山田村宛に書状を送った際、香積寺の僧が読み上げ披露したとも記されています。また香積院と記されている寺院も、同一のものと考えられます。江戸末期の「大木村絵図」では「光若寺」と見え、明治初期の頃までは住持がいたようですが、現在は廃寺となっています。境内地と推定されている指定地内には、1463（寛正4）年の一石五輪塔や天正年間の宝篋印塔、石仏など中近世の石造物が数多く残されています。

## 15 長福寺跡 ちょうふくじあと

1501（文亀元）年から1504（永正元）年までの約4年間、九条政基が長福寺に住み現地支配の拠点としました。

『政基公旅引付』には、三毬打（左義長）などの行事や入山田の住民が風流踊りを披露しに来たことなど、さまざまな出来事が記されています。長福寺は1611（慶長16）年の史料を最後にその名が見えず、その前に廃絶したと思われます。円満寺に隣接する字名「長福寺」（チョークジ）の水田が所在地と考えられてきましたが、平成14・15年度の発掘調査で大量の瓦とともに建物跡、園池、井戸、石組みの暗渠水路、生活道具などが発見され寺院跡が確認されたことから、平成17年に日根荘遺跡に追加指定されました。

## アクセス

### JRを利用して電車でお越しの方

■大阪方面から 天王寺駅から阪和線で日根野駅へ
■和歌山方面から 阪和線で日根野駅へ
■関西空港から 関西空港線で日根野駅へ

### 南海を利用して電車でお越しの方

■大阪方面から なんば駅から南海本線で泉佐野駅へ
■和歌山方面から 南海本線で泉佐野駅へ
■関西空港から 空港線で泉佐野駅へ

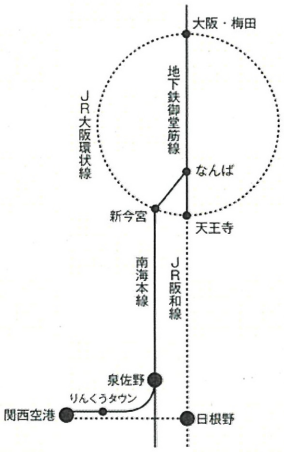
### 日根野地区・土丸地区・大木地区へは

南海・泉佐野駅もしくはJR・日根野駅から徒歩もしくは、
南海バス「犬鳴山」行き乗車、「久の木」「東上」「土丸」
「下大木」「中大木」「上大木」下車

### 車で高速道路を利用してお越しの方は

■阪神高速湾岸線 泉佐野北出口もしくは泉佐野南出口
■阪和自動車道 泉佐野ジャンクションより市街地方面、
もしくは上之郷出口

大木地区の集落には駐車場がありません。
できる限り公共交通機関お越し下さい。




# 国史跡 日根荘遺跡


発行：泉佐野市教育委員会教育総務課
〒598-8550 泉佐野市市場東1丁目295-3　TEL 072-463-1212(代)
http://www.city.izumisano.lg.jp/
発行月：平成27年8月